

経営者の皆様に、次への視野(スコープ)を。  
毎月、かんぽ生命がお届けします。

# かんぽスコープ

Vol.95

経営  
時流

## 社会性という青い海へ。 新規事業に、意外なブルーオーシャンがあった。



「救缶鳥プロジェクト」用の「パンの缶詰」を手にする秋元氏。

競争が激しいレッドオーシャンから、競争のない未開拓のブルーオーシャンへ。新規事業を起すなら、高収益と持続的な成長が期待できる領域をめざしたいのですが、実はその可能性がソーシャルビジネス(社会的事業)※にあると知ったら、驚くかもしれません。栃木県那須塩原市のパン屋さんが推進するソーシャルビジネス「救缶鳥プロジェクト」。究極のブルーオーシャンともいえるこの事業を開拓した株式会社パン・アキモトの秋元義彦社長にお話を伺いました。

**災害で生まれた商品。だから義援の恩返しを。**

今年7月29日、福島県郡山市の被災者の集会場に、フライヤーでドーナツを揚げる秋元氏の姿があった。

東日本大震災から6年半。今も秋元氏は毎月1回、被災地に足を運んでボランティアに汗を流している。「災害をきっかけに生まれ、災害で伸びた商品ですし、社会貢献を事業化していますから、私自身、何らかの形で支援を継続したいのです」

秋元氏が言う商品とは「パンの缶詰」。製造後3年たっても焼きたてと同じ柔らかさを保つパンで、備蓄が目的ながらおいしさも兼ね備えた食品としてロングセラーを続けている。そして社会貢献とは、この「パンの缶詰」を飢餓に苦しむ途上国や大規模災害に襲われた国・地域に無償で届ける「救缶鳥プロジェクト」のことだ。

パン・アキモトは、秋元氏の父が1947年に創業。長年、街のパン屋さんとして地元で親しまれてきたが、95年に起きた阪神・淡路大震災を契機に災害備蓄できるパンの開発に乗り出した。

「満を持して発売しましたが、しばらくはあまり売れませんでした。ブレイクしたのは7年後、04年の新潟

**「パンの缶詰」に、新たな使命を託す事業を構想。**

秋元氏は、父の代からのクリスチヤン。地震の報に接すると、父の指示ですぐに約2千食のパンを焼いて神戸の教会に送った。ところが、賞味期限まで食べきれずに半分以上が廃棄されてしまったのだ。「日持ちのするパンをつくってくれ。それが君のミッションだ」との牧師さんの声に秋元氏は奮い立った。

パンにカビや腐敗を生じさせないためには水分を抜けばいい。しかし、それでは乾パンになってしまふ。柔らかさを保つたまま長期保存できるにはどうすればいいか。試行錯誤を重ねた結果、特殊な紙に包んだ生地を缶に入れ、缶ごとオーブンで焼いて殺菌する方法を発明。製品化までに1年以上がたっていた。



「パンの缶詰」は、缶ごとオーブンに入れて焼く。



旗艦店舗の「石窯パン工房きらむぎ」。

株式会社パン・アキモト  
〒329-3147  
栃木県那須塩原市東小屋295-4  
☎0287-65-3351  
http://www.panakimoto.com

※社会的課題の解決を目的に取り組み収益事業のこと。

**たとえ時間がかかっても  
信じたことをやり通す。**

このビジネスモデルには隙がない。商品は模倣できず、新品を届けて下取り品を回収するには運送会社の往復便、義援物資の配送にはNGOの協力と、独特なネットワークを構築している。他社が容易に参入できないため価格競争がなく、また、顧客はリピート購入してくれる上、直販のため利益率は高い。そして何より、社会的意義が高いため多くの人が応援してくれる。マスコミは取材を通じて宣伝してくれ、企業や自治体は大口の注文を寄せてくれる。「特にねらったわけではなく、本業の延長で社会貢献できることを追求してきただけです。完成までに、時間がかかりましたけどね」

秋元氏の言葉どおり、阪神・淡路大震災から「パンの缶詰」が軌道に乗る04年まで9年、スマトラ島沖地震から「救缶鳥プロジェクト」が始動する09年まで4年。その間、秋元氏は人脈を広げ、さまざまな企業や団体と交渉を重ね、決して諦めずに事業を育ててきた。そして、東日本大震災や熊本地震、フィリピン豪雨などの災害義援に、ケニアやスワジランドなどの飢餓対策に、これまでに30万缶以上を届けてきた。

「いつの日か社会に受け入れられることを信じて、事業にのめり込めるのは中小企業ならではのですね」

## 新規事業を思い立ったとき、 使える資金、備えていますか？

新規事業を立ち上げるときは、  
研究開発や設備投資、  
市場調査などで先行投資が必要に。  
こうした、当面回収が難しい資金を  
準備するには、どうしたら良いでしょう？



ぜひ  
ご覧ください

マンガで楽しく、  
分かりやすく  
ご案内しています。

**かんぼビジネスライブラリ**  
「新規事業資金に活用」の巻



## 資料をご要望の皆さまへ

ご覧の資料をお届けします。  
ご要望の方は、お手数ですが、かんぼ生命保険の  
**最寄りの支店**までご連絡ください。



## この機会に、災害への備えについて再確認ください

株式会社バン・アキモトは、災害備蓄品を提供する会社として、自社が災害にあったときでも製造を継続できるように、沖縄に工場を建設し、自家発電設備を導入するなど災害耐力の向上に努めています。御社の災害対策はいかがですか？ 以下、備蓄品として備えておきたいリストを示しますのでチェックしてみてください。



### 企業の災害備蓄リスト \*以下、少なくとも3日分、余裕をもって7日分確保したいものです。

従業員数分の水(飲料用と生活用のためには、1人当たり1日3ℓが目安)	ふた付きポリバケツ、ゴミ袋、ほうき
従業員数分の食物(非腐敗性食品を少なくとも3日間分)	ビニールシートおよびテープ(部屋を閉じるため)
缶切りおよび紙製(またはプラスチック製)食器	ブルーシート
カセットコンロおよびガスボンベ	簡易トイレ製品(または、トイレ用ビニール袋およびビニールテープ)
ラジオ(乾電池型、手巻き充電型)、予備乾電池	カメラ、フィルム、予備乾電池(損害を記録するため)
懐中電灯、予備乾電池	毛布(可能ならば、簡易ベッドやマットなどもあると良い)
救急箱	現金(電話用の小銭も含む)、キャッシュカード、クレジットカード (停電により、ATMが利用不可な状況などに備えるため)
笛(救助を求めるためのもの)	連絡先リスト(従業員、警察、消防等や公益事業会社などの緊急サービスなど)
作業用防具類(ヘルメット、防塵マスク、アイガード、作業用手袋など)	事業継続のための活動項目リスト
衛生用具類(ウェットティッシュ、トイレ用ペーパーなど)	地図、ビル内フロアマップ
工具類(ペンチ、ハンマー、遮断レンチ、シャベル、てこ用棒など)	拡声器
文具類(鉛筆、数色のマジックペン、ノートなど)	

\*中小企業庁Webサイト「中小企業BCP策定運用指針」の「様式19 災害対応用具チェックリスト」を基に作成。

災害に備える事業継続計画(BCP)の全体像については、中小企業庁のサイトをご覧ください。 \*中小企業庁HP→経営サポート「経営安定支援・BCP」

\*株式会社バン・アキモト様は、従業員に万一のことがあったときの備えとして、かんぼ生命の「福利厚生プラン」にご加入いただいています。

(注)  
記事中に記載の法令や制度等は取材当時のもので、将来変更されることがあります。詳細につきましては、各専門家にご相談いただきますようお願いいたします。